

税についての作文

税

のこと考えてみよう

国税庁と仙北市が共催で募集していた中学生の「税についての作文」で、畠山桜叶羽さん（角館中3年）の作品「税金という約束」が公益財団法人全国法人会総連合会長賞、石川才稀さん（神代中1年）の作品「地域の税の仕組みを調べて分かったこと」が大曲地区税務団体協議会長賞、清水陽光さん（神代中2年）の作品「国を支える大切なもの」が仙北市長賞を受賞しましたので、全文（原文のまま）をご紹介します。

公益財団法人全国法人会総連合会長賞



畠山 桜叶羽さん
(角館中学校3年)

「税金という約束」

私たち国民が払う税金。それは手元に、お金として戻ってくることはありません。多くは私たちの生活をよりよくするために、国の計画のもとに使われます。しかし、私は今まで、どうして納税が義務になっただのか疑問に思っていました。「税がなくても、暮らしが不便になることはないだろうに、なぜ義務なのだろう。」そこで調べたところ、ある偉人が出てき

ました。「学問のすすめ」を書いた福沢諭吉です。福沢諭吉はその中で「政府は人々の生活や安全を守る。しかし、それを行うために必要な費用がないので、税金としてみんなに負担してもらおう。これは政府と国民双方が一致した約束である。」と著しています。税金は、国と私たちの約束であるという意味です。つまり、国と私たちの信頼関係を築いてい

るのも税金である、ということだと思います。そしてこの約束は、私たちが生まれる前から続く歴史であり、私たちがつないでいくべき未来でもあります。私たちはこの約束をずっと受け継いでいかなければならない立場にいるのです。私は、もっと若い世代がそのような意識を以て過ごすことが大事だと思います。

おとしの十一月、新型コロナウイルスが発見され、マスク、手洗い、消毒など、感染対策をしっかりとって過ごす日々が始まりました。そんな時、安倍首相や政府が行った政策を、覚えているでしょうか。マスク不足や価格の高騰に対応し、政府は布製のマスクを配給しました。どのようなものだったかというところ、マスク不足やマスクを買うことができずに困っている人のために、政府が四百六十六億円を使用して配給したものです。しかし、「サイズが小さすぎて使えない」「耳までひもが届かず、使えない」といった声が相次ぐこととなりました。

大曲地区税務団体協議会長賞



石川 才稀さん
(神代中学校1年)

「地域の税の仕組みを調べて分かったこと」

「税」という言葉から最初に思い浮かべることは、「習字」である。

それは、小学校一年生から、毎年、夏休みの課題に「税に関する習字」へ出品するための作品を練習し、応募していたからである。その作品は、大型商業施設や仙北市のイベント会場に展示され、仕上げた作品を多くの人に見てもらい、「才稀ちゃん、習字見たよ」と言っても

らうことがうれしかったことを今でも覚えている。そこで、なぜ、そのような取り組みをしているのか、多くの人に税に関するのを知ってもらおう必要があるのかを私なりに考えてみた。習字作品でいただいた賞状を見返してみると、「仙北市納税貯蓄組合連合会主催」と書いてある。母にそのことを聞いてみると、「おじいちゃんが、地

域の組合の代表になっていたことがあるから、聞いてみるといいよ」と教えてくれた。そこで、早速、祖父に聞いてみることにした。祖父は、田沢湖町納税貯蓄組合連合会と書かれた「やさしい税の解説書『税のしおり』」を見せてくれた。それを読んでみると、税金は、道路の整備、教育の充実など国の重要な事業実行のために使われる大事なお金であることが書かれていた。

また、税金にもいろいろな種類があり、納める金額も各家庭によって違うことも分かった。しおりの目次の中で「申告と納税」という言葉が目にとまった。習字で書いたことがある言葉だったので、調べてみると、決められた期限までに自分の税額を計算、書類に記載して、税金を納めることが分かった。そして、各地域ごとの納税貯蓄組合によって、住所や家屋がある場合に納める市・県民税、土地や家屋の価値に応じて納める固定資産税などをとりまとめ、申告して、わがわがとりまとめていたのを知った。祖父に、「どうして、わがわがとりまとめていたの?」と聞くと、「税

金は、いつ納めていいというのではなく、納期という税金を納める時期が決まっているからだ。そして、みんなのために使われるお金をみんなできちんと納めるための取り組みなんだ。」と教えてくれた。



市内こども園、保育園の先生方も参加してくださいました。

**令和3年度
仙北市教育研究会研究大会**

毎年、市内の先生方が集まり、仙北市教育研究会研究大会が開催されています。今年度は、コロナ禍ということで、オンラインでの開催になりました。

「骨太な子ども」「仙北市プライドをもった子ども」を育てられるよう今後力を入れていきます。

市内こども園、保育園の先生方も参加してくださいました。

わが校の自慢
～西明寺小学校編～

西明寺小学校の自慢は「思い出し山」です。これは、校庭の一角にある小高い丘です。6年生にどんな場所なのかインタビューしてみました。

▼伊藤恵美夏さん：「気持ちが休まる場所。夏は涼しくて、寝転ぶと気持ちがいい。」

▼江橋音杜さん：「自然がいっぱい。葉、木の実、木の枝などがたくさんある。木登りも楽しい。」

▼佐藤光太郎さん：「みんなで一緒に遊べる場所。山の陰には秘密基地がある。」

▼八柳遥音さん：「みんなでかくれんぼや鬼ごっこができる。秋にはあけびもとれる。自然との関わり、人との関わりが子どもを育てていくことを再確認させられた自慢の場所でした。」



たくさん遊び場があります。

心豊かな教育文化のまち

きたろうら

《仙北市教育委員会だより》

第122号

音楽記号	もとの意味	例えた理由
Cantabile (カンタービレ)	歌うように	□の中で食材たちが美しいハーモニーを奏でている心地がするから/田中七菜さん
■ (全休符)	全部休む	おいしい給食を食べた後にはゆっくり休みたいから/加藤愛翔さん
# (シャープ)	半音高く	好きなメニューだと、テンションが上がるから/酒出華さん
Allegretto (アレグレット)	やや速く	友だちにおかわりの気配を悟られないように食事をすすめるから/高橋杏璃さん
con anima (コン アニマ)	生き生きと	地元の食材のおいしさを生かしているから/草薨里香さん
< (クレッシェンド)	だんだん強く	給食の時間が近づくにつれてテンションが上がるから/武藤樹希さん

生保内中学校 おいしい顔ってどんな顔？

食材の素敵な音色や和音を響かせてくれる給食センター。今回は生保内中学校3年生に給食を音楽記号で表してもらいました。

思わず歌いたくなるおいしさです!!

角館小学校 おいしい顔ってどんな顔？

仙北市の給食には、郷土食も出ます。今回のメニューは、「御狩場焼き」です。これは、昔、佐竹北家のお殿様が狩りをし、獲物をその場で料理して食べたことがもとになっているそうです。

そこで「あなたが殿様だったたら何を？」を、角館小学校5年生に聞いてみました。

もじも、あなたがお殿様だったら

- ▼バイキング給食を増やす/中村凌磨さん
- ▼芸能人に勉強を教えてもらう 鈴木利心さん
- ▼先生の誕生日を休日にする/佐藤謙司さん
- ▼ミルメークがある給食を増やす 小林廉修さん
- ▼eスポーツの授業をやる/高橋泰来さん
- ▼お昼寝の時間をつくる/坂本莉子さん
- ▼エレベーター・エスカレーターを作る 傳農莉愛さん
- ▼プールにウォータースライダーを作る 伊藤鉄平さん

あっぱれ!! あっぱれ!!



これが、御狩場焼き

税 税についての作文 のこと考えてみよう

「国を支える大切なもの」

「税とは何か。」そう思い始めたのは、中学生になつてからだ。税と聞いて思い浮かぶのは、私達にも身近な消費税だ。今の消費税率は十パーセントになり、百円のものも百十円になるというものだ。私は今まで消費税は何に使われているのかわからなかった。ものを買うときに必ずついてくる消費税、私にとってすごく厄介なものだった。

私は、中学生になりなるとなくではあったが税について知っておこうと思った。以前、私は、父にどのような税を払って

いるのか聞いたことがある。私の家では、畑だった場所に建て物を建てようとしていた。私は、自分の所有地であればどこに建て物を建てても良いと思っていた。それは父も同じ考えだった。だが、そう簡単に建て物を建てる事が出来なかった。まず、土地を所有するにあたって、「固定資産税」を税として納めなければならない。その納める税の価格は、宅地、又は、農地でだいぶ異なっている。そのため、どこにでも建て物を建てて良いというものではな

ったのだ。この出来事が、「税の難しさ」について知るきっかけとなった。また、私が普段、何気なく使用しているものにも税が使われていた。一番身近だと思うのは教科書だ。教科書の裏表紙には次のようなメッセージが刻まれていた。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」私は、初めて今まで使ってきた教科書は全て税によって支給されていることを知った。このとき、私は、「税のありがたさ」について知るきっかけとなった。他にも私達が使用しているものも税によって作られていた。例えば、私達が洗面や調理などのときに使用する上下水道。私達が通学するとき使用する道路。いつも交通整備をしている信号。私達が毎日勉強している学校。部活動で使用する公施設。私達の暮らしを



清水 陽光さん (神代中学校 2年)

守ってくれている警察や消防など、普段、何気なく使用しているものも税金によって賄われていた。私は、「税とは何か。」この疑問を最初に提示した。私が見聞きしたことを短くまとめると、「国を支える大切なもの」だと私は考えた。もしこの日本の税金制度が無ければ、道路も無く、公施設すらも作られていないと思う。また、現在の日本は発展先進国であるが、この税金制度がなければ発展途上国であったと言っても過言では無いと考える。今、コロナ禍であり、したいこともできないような状況である。そんなときに日本の税金制度について調べて見るとどうだろうか。これからの日本を担う私達が今のうちから日本の税金制度を少しでも知っておくことにより、日本の未来がより良い方向に向かっていくのではないかと私は考えた。

入選おめでとうございます

最優秀賞以外の入選者は次のとおりです。(敬称略)
※氏名の表記は原文のまま掲載しています。

金賞

- ◆ さいとつことみ(角館小2年)
- ◆ 八柳和華(角館小4年)
- ◆ 堀井柚香(角館小5年)

銀賞

- ◆ 山口あすみ(神代小2年)
- ◆ 米澤美月(角館小4年)
- ◆ 関谷菜桜(西明寺小6年)

銅賞

- ◆ すが原な月(角館小2年)
- ◆ 阿部さな(松木内小4年)
- ◆ 山口海嘉(神代小6年)

最優秀賞

仙北市主催で募集していた小学生の「税に関する習字」で、荒木田桜心さん(白岩小5年)の作品が最優秀賞を受賞しました。

最優秀賞を受賞した荒木田さん。

税

に関する習字